



企業訪問レポート

日本のふるさと大和で「^{まごころ}慎の商い」を伝承

株式会社白玉屋榮壽 ^{しらたまやえいじゅ} 奈良県桜井市

1844年（弘化元年）創業の株式会社白玉屋榮壽は、来年に創業170周年を迎える県内でも老舗の和菓子店だ。創業時はお菓子屋として、^{もなか}最中以外のお菓子も作っていたそうだが、最中が一番食べやすく美味しかったことから名物「みむろ」だけの販売が引き継がれてきた。文献として残っている明治時代以降、素材の配合は全く変えず、伝統の味を守り続けている。

同社の信条である「^{まごころ}慎の商い」（感謝の気持ちと真心のこもった対応）により、日本のふるさとである大和の三輪と奈良の地だけで、名物「みむろ」を販売している。

会社概要



会社名：株式会社白玉屋榮壽
所在地：奈良県桜井市大字三輪 497
電話：0744-43-3668
FAX：0744-43-3669
創業：1844（弘化元）年
設立：1954（昭和29）年
代表者：代表取締役社長 石河 敏正
資本金：1,000万円
従業員：30名
事業内容：和菓子製造・販売及び喫茶営業

弘化年間（1844～1848年）からの名物「みむろ」最中

名物「みむろ」は弘化年間に、初代 白玉屋榮壽氏が当時の三輪村下市上街道沿いに始め、以来約170年の間、その製法を一子相伝（自分の子供の一人だけに伝えること）7代にわたって伝承している。この銘菓を製造・販売するのが株式会社白玉屋榮壽で、同社は和菓子の中でも最中（名物みむろ）のみを直営店で商い、長い生業で培われた「^{まごころ}慎の商い」を貫くエクセレントカンパニーである。

名物「みむろ」は、本舗の守護神 ^{おおみわ}三輪明神大神社の御神体 ^{みむろやま}三諸山に因んで名づけられた。

大納言小豆の香り高い^{あん}餡から醸しだされる風味は、当時から大和上街道の宿場街の銘菓として親しまれ、交通や通信手段の発展と共に、全国から愛顧を得るようになったという。

文献として残っている明治時代以降、素材の「^{もち}糯米・小豆・砂糖」などの配合は全く変えることなく、伝統の味を守り続けている。



名物「みむろ」と素材の糯米と大納言小豆

名物「みむろ」は、パリッとした皮の中にぎっしり餡が詰まっているが、「こしあん」と「つぶあん」の調和が上品で、くせのないすっきりした味に仕上がっている。また「つぶあん」になる大納言小豆は、県内の農家や生産者から直接購入するなど、できるだけ奈良県産を仕入れ、地元・奈良の地産地消にも貢献している。



桜井市三輪の本店（上）とライトアップした街道沿いにある創業店（下）



名物「みむろ」と景観に配慮した本店社屋

名物「みむろ」は、昭和48年第18回全国菓子大博覧会の高松宮名誉総裁賞（最高位賞）を受賞。さらに平成元年第21回大会では茶道裏千家家元褒賞（特別賞）、同20年第25回大会では橘花榮光章（特別榮譽賞）を受賞するなど、全国的に榮譽ある銘菓として好評を博している。

また本社社屋は、昭和52年第1回奈良県建築作品展において最優秀賞（奈良県知事賞）を受賞。周辺景観に配慮した建物として高い評価を得ている。また工場設備も食品衛生優良施設として厚生大臣賞を受賞するなど、数々の賞を受賞している。



奈良県建築作品展で最優秀賞を受賞した本店の外観と三輪明神の大鳥居

石河社長の商いの原点

7代目の石河社長は、大学卒業時には、商社などの他業種での修行も考えたが、岐阜県大垣市の和菓子屋で2年間修業を積み、和菓子作りについてのイロハを勉強させてもらったそうだ。なかでも修業先の社長に教えてもらった次の言葉が商いの原点になっているという。

「君も私も先代から敷かれた線路の上を走らねばならない。人からは線路の上なら安全で、楽な道を進んでいるように見えるかもしれない。しかし、平坦な線路の上ばかりではない。楽をしようと思えば下るだけ。上げようと思えば必死になってこぐしかない。相当なパワーがいるだろう。でも決められたレールから足を踏み外すことなく、自分の力で上りきる覚悟を持ってほしい」この言葉が、石河社長の座右の銘として、今も心に深く

刻み込まれているという。

三輪と奈良での真心のこもった対面販売

名物「みむろ」を全国で販売してはどうかと百貨店などから、再三販売の依頼があるそうだが、あくまでも三輪と奈良だけでの販売を守り続けている。またネット販売についても石河社長は「相手の顔が見えないし、望んでおられることを正確に聞きだすことができないので、取組む予定はない。これからもお客様の要望をしっかりと聞いて、対面による販売を守りたい」と語る。



本店の店内風景（左）と参拝や大和路散策の道中の休憩によく利用される本店併設の和風喫茶（右）

また同社は、信条である「慎の商い」以外には企業理念や社員用の販売マニュアル等も特に策定していない。しかし、石河社長は社員に対し「当社は『名物 みむろ』だけしか商品はない。お買い求めいただくために、お店までお越しいただくお客様の要望は何なのか、熨斗紙が必要なのかどうか等を常に考えて立体的に行動し、感謝の気持ちと真心をこめた接客を心掛けるよう指導している」と対面販売の指導方針を語る。ただし「社員自身が備え持っている心の美しさを全面に出して、笑顔で真心のこもった対応をすれば、自ずと思いが伝わるので自分らしさを発揮してほしい」と語る石河社長の目は優しい。

「野球では火消し役のストッパーが重要だが、私はその前に登板するセットアッパー。先代から引き継がれている自社の希少性を守り、進化・発展させながら、次世代へ承継していきたい」と謙虚な姿勢を崩さない。地元・三輪を愛し、名物「みむろ」でお客様に喜んでもらうために全力を注ぐ石河社長の挑戦はこれからも続く。

（橋本公秀、太田宜志）